



## 課題研究部会のあゆみ

## 課題研究部会

# 読解力（汎用的な資質・能力）の育成について ～1年次～

## I はじめに

令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果から、小6・中3ともに「読むこと」に課題があることが明らかになった。小6の「読むこと」の平均正答率は全国・市ともに5割に満たず、さらに市の平均正答率は「読むこと」に関する全ての問題で全国の値を下回る状況であり、中3においても、問題別平均正答率の「文中の語句の意味理解」は全国平均以下である。

また、様々な教科で行われている各校の学校研究においても、その分野を問わず基礎となる読解力の育成は、共通の課題である。

そこで、今年度より上記テーマを掲げて研究し、課題に対応していく。

## II 研究の進め方

1 テーマ 読解力（汎用的な資質・能力）の育成について

2 組織 各校1名以上の代表者計16名で構成

3 内容

(1) リーディングスキルテスト（RST）を中学生が受検

(2) 全体研修会の開催…オンラインで全所員対象

(3) 課題研究部会の開催…2回（オンライン型と集合型）

1回目…読解力の理解についての演習，実施計画の作成

2回目…実践事例の交流，次年度の計画

## III 研究の概要

### 1 第1回研究部会

(1) 日時・場所 令和4年6月1日（水）15：00～16：45 オンライン

(2) 内容 講話「リーディングスキルを活用した授業づくり」

講師：目黒 朋子 氏（教育のための科学研究所 上席研究員）

RSTについての理解を深め、中学生のRSTの結果を読み解くための全体研修会を受けて、第1回課題研究部会を行った。以下は講話の概要。

- 「教科書をしっかり読みなさい」「教科書に書いてあるでしょ」から脱却し、RSを意識した授業へ。
- RSを高めるには、「早くあやふやな読み」から「ゆっくりでも正確な読み」を目指すこと。これを繰り返すことで、早く正確に読めるようになる。
- RSTは診断であり、集団の全体傾向と特徴ある個人の実態を把握するもの。指導者がRSの6分野7項目を視点に教科書を読むことが必要。
- RSの視点から授業を変えるには、意図や目標を言語化するスキルが指導者に必要。
- RSを活用した授業づくりは、子どもの教科書読解には個人差があることを前提にし、6分野7項目を使って「読み」の凸凹をなくし、教科書の内容理解のレディネス

をそろえること。

- RSを活用した授業づくりのポイント
  - ・ 指導者が文章の読み書きについて「解像度」を高くする。
  - ・ 「じっくり」「しっかり」「きちんと」「よく」ではなく、「どうするか」が分かるように言語化していく。
  - ・ 国語科だけでなく、全教科で取り組む。
  - ・ 国語でも文章を絵にするなど、根拠を基にした「イメージ同定」を取り入れる。
  - ・ 子どもが書いた文が「文になっている」かどうかを常にチェックする。  
(主語と述語, 言い回し, 対応する言葉, 文が一意になっているか など)
  - ・ RST をドリル的にさせず, あくまでも授業の中でRSを伸ばしていく。  
(指導者の作問のくせを学習してしまう, 作問文章の正確性 など)

## 2 第2回研究会

(1) 日時・場所 令和4年12月8日(木) 15:00~16:45 西根小学校

(2) 内容

- ① 本市の課題から…R4全学調, RST
- ② RSフォーラム視聴(大阪市教育センターの取り組み)

### ○『言語力育成モデル』

全ての児童・生徒が、適切に教科書を理解し、主体的に教科書を読んで学習できるように、言語能力を支える語彙を獲得させるとともに、文の基本構造(主語・述語等)や非言語情報(図表等)に着目して読み取らせる力を育成する授業モデル。



基礎的読解力(大阪市)	RST
文の構造を正しく理解する力	係り受け解析
指示語を理解する力	照応解決
要旨を理解する力	同義文判定
論理的に考える力	推論
図と文を一致させる力	イメージ同定
具体と抽象を一致させる力	具体例同定
語彙力	

### ③ 意見交換・共有

## IV おわりに

RST 自体の理解, さらに今後加速する AI/DX 時代での読解力の必要性の理解から始まった初年度の今年。冒頭に記した子どもたちの力や各校の学校研究は, 将来の人間の優位性や存在意義にも関わる契機となることをも知った。

主体的に学ぶために必要な情報を正確に読み取る力, 協働的に学ぶために必要な話したり書いたりするを通して伝える力など, 今まさに必要としている力を「汎用的基礎読解力」という視点から授業を見直し, まずはわたしたち指導者自身が解像度高く教科書を読み直してみること, そしてその取り組みを組織全体が共通理解のもとで始める必要があることを実感した。

(原田 浩治)

# 個人研究の紹介

学校名	寒河江市立南部小学校		
職名	教諭	氏名	武田豊己
主題名	特別支援学級（自閉症・情緒障がい）児童に対する支援と変容		
研究のねらい	昨年度より、本校の自閉症・情緒障がい特別支援学級の担任をしている。在籍する5年男子A児について、これまで特別支援学校等で培ってきた知識を使って支援を行っていったことで、言動が変容していると感じた事例があった。そこで、この実践をまとめ、広くご意見をいただき、より良い支援に生かしていきたいと考え、主題を設定した。		

学校名	寒河江市立南部小学校		
職名	教諭	氏名	工藤宏貴
主題名	学校と地域が連携・協働した総合的な学習の時間の進め方の考察 —ビオトープを活用したカリキュラムの開発を通して—		
研究のねらい	コミュニティ・スクールの導入が急速に進む本県において、地域との連携・協働は喫緊の課題といえる。「学校と地域が連携・協働して総合的な学習の時間のカリキュラムをデザインし、実践していくこと」を一つの目指すべき姿として、そのために効果的な手立てを考察することが本研究のねらいである。		

学校名	寒河江市立三泉小学校		
職名	教諭	氏名	奥山真由美
主題名	子どもの気づきを生かした総合的な学習の時間の実践		
研究のねらい	三泉地区を流れる「寒河江川」の見学やごみ拾いなどを通し、子どもの気づきを生かしながら、表現力や思考力、主体性を高める手立てを検証する。		

※ 個人研究の詳細につきましては、別冊の『私の教育実践 第26集』をご覧ください。